

3

One morning, Buddha in heaven was taking a stroll alone by the lotus pond.

"Oh, what a pleasant morning. The flowers in the lotus pond are all so beautiful and smell so nice."

After a while, Buddha suddenly paused and looked down into the bottom of the lotus pond.

The bottom of the lotus pond was connected to the afterlife world hell and through the lotus leaves on the water surface he could clearly see what was going on there.



5

Then, among the many people in hell, a single sinner caught Buddha's eye.

The sinner was the great thief Kandata.

Kandata was struggling for breath in the hell's blood pond that was filled with crimson blood.

"Hmm, Kandata...he has done a whole lot of bad things during his lifetime. If he had done even a single good thing, I could've considered saving him... What a shame."

At that moment, Buddha remembered that only once Kandata did a good thing in his entire life.



21

あるひの あさ。

ごらくに すむ おしゃかさまが、

はすいけの ふちを ひとりで さんぽしていました。

「ああ、なんと きもちのよい あさだ。

はすいけの はなも うつくしいし、かおりも よい」

やがて おしゃかさまは、ふと たちどまり、

はすいけの そこを のぞきこみました。

この はすいけのそこは、

あくにんが しんだ あとに いく しごのくに

『じごく』に つながっていて、すいめんを おおう

はすの はの あいだを とおして、

じごくの ようすが はっきりと 見えるのです。



おしゃかさまは そのなかで、
ひとりの ざいにんに めをとめました。
その おとこは『かんだた』という
おおどろぼう でした。
かんだたは まっかな ちで できた
『ちのいけ じごく』で、
くるしそうに おぼれていました。

「ふむ、かんだた か・・・あいつは いきているあいだ、
さんざん あくじを はたらいていたからな。
なにか ひとつでも よいことを していれば、
すくってやっても よいのだが・・・」

そのとき おしゃかさまは、
かんだたが むかし いちどだけ、
よいことを したのを おもいだしました。

